

平成29年勝浦町マラソン議会（9月会議）会議録第4日目

1 招集年月日 平成29年9月27日

1 招集場所 勝浦町議会議場

1 開閉日時及び宣告

開議 9月27日 午前9時30分 議長 篠 公一

散会 9月27日 午後3時03分 議長 篠 公一

1 出席及び欠席議員

○出席議員（10名）

| | | | |
|----|---------|-----|---------|
| 1番 | 仙 才 守 | 2番 | 松 下 一 一 |
| 3番 | 美 馬 友 子 | 4番 | 麻 植 秀 樹 |
| 5番 | 松 田 貴 志 | 6番 | 篠 公 一 |
| 7番 | 国 清 一 治 | 8番 | 森 本 守 |
| 9番 | 井 出 美智子 | 10番 | 大 西 一 司 |

○欠席議員（0名）

1 地方自治法第121条第1項により説明のために出席した者の職及び氏名

| | | | |
|----------|---------|-----------|---------|
| 町 長 | 中 田 丑五郎 | 副 町 長 | 藪 下 武 史 |
| 教 育 長 | 椎 野 和 幸 | 企画総務課長 | 山 田 徹 |
| 税 務 課 長 | 久 木 喜 仁 | 福 祉 課 長 | 岡 本 重 男 |
| 産業交流課長 | 海 川 好 史 | 住 民 課 長 | 中 瀬 弘 晴 |
| 建 設 課 長 | 柳 澤 裕 之 | 教育委員会事務局長 | 笹 山 芳 宏 |
| 勝浦病院事務局長 | 笠 木 義 弘 | 会 計 管 理 者 | 後 藤 信 之 |
| 地方創生推進室長 | 石 木 正 昭 | 簡易水道対策室長 | 松 本 博 文 |

1 職務のため出席した者の職氏名

事 務 局 長 河 野 稔 彦

1 議事日程（第4号）

開議宣告

日程第1 諸般の報告

日程第2 議会運営委員会所管事務調査報告

- 日程第3 認定第1号 平成28年度勝浦町各会計歳入歳出決算の認定について
- 日程第4 平成29年度勝浦町一般会計補正予算（第2号）及び平成29年度勝浦町病院事業特別会計補正予算（第1号）の訂正について
- 日程第5 議案第1号 勝浦町子どもはぐくみ医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第6 議案第2号 地方自治法第203条の2の規定による者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
- 日程第7 議案第3号 平成29年度勝浦町一般会計補正予算（第2号）について
- 日程第8 議案第4号 平成29年度勝浦町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について
- 日程第9 議案第5号 平成29年度勝浦町介護保険特別会計補正予算（第1号）について
- 日程第10 議案第6号 平成29年度勝浦町病院事業特別会計補正予算（第1号）について
- 日程第11 議案第7号 勝浦町道路線の認定について
- 日程第12 報告第1号 平成28年度決算に基づく財政の健全化判断比率について
- 日程第13 報告第2号 平成28年度決算に基づく資金不足比率について
- 日程第14 報告第3号 平成28年度簡易水道事業特別会計継続費精算報告書について
- 日程第15 同意第1号 勝浦町固定資産評価審査委員会委員の選任について
- 日程第16 議員派遣について

1 本日の会議に付した事件

日程第1から日程第16まで（第4号）

1 会議の経過

別紙のとおり

～～～～～～～～～～～～～～～～

午前 9 時29分 開議

○議長（節 公一君） それでは、ただいまから平成29年勝浦町マラソン議会 9 月会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元へ配付のとおりでございます。

~~~~~

○議長（節 公一君） 日程第 1，諸般の報告を議題とします。

法第121条第 1 項の規定により、説明者として出席を求めたのは中田町長，藪下副町長，椎野教育長，山田企画総務課長ほか関係各課長でございます。

以上で諸般の報告を終わります。

~~~~~

○議長（節 公一君） 日程第 2，議会運営委員会所管事務調査報告を議題とします。

議会運営委員会調査結果の報告を求めます。

松田議会運営委員長。

○議会運営委員長（松田貴志君） おはようございます。

本日 9 月27日，9 月会議開会前に議会運営委員会を開きましたので，協議結果を報告いたします。

議事日程であります。本日第二読会において認定第 1 号，平成28年度勝浦町各会計歳入歳出決算の認定を審議し，第三読会に入ります。

その後，議案第 3 号及び議案第 6 号の訂正の申し出がありましたので，訂正内容の説明を受け，質疑を行った後，議案第 1 号から議案第 7 号を第二読会で審議し，第三読会に入ります。以下，議事日程のとおりとします。

以上，報告とします。

○議長（節 公一君） 以上の報告について質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（節 公一君） 質疑なしと認めます。

~~~~~

○議長（節 公一君） それでは，日程第 3，認定第 1 号，平成28年度勝浦町各会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

既に第一読会は終わり、質疑は終わってますので、これより第二読会の詳細質疑を行います。

質疑のある議員はご発言をお願いします。

どなたかございませんか。

国清議員。

○7番（国清一治君） おはようございます。

決算認定について質疑を行います。

第一読会で各担当課長から説明を受けたんですが、基本的には非常に不用額が多いということで、私、集計は出しておりませんが、まず総務課長に聞きたいんですけども、不用額はトータルでどれぐらいあるのか、それを聞きたいのと、不用額で残した場合に翌年度の予算執行に支障が出ないのかどうかということをお聞きしたいのが1点でございます。

それともう一点は、予備費の流用がありますので、これは担当課長に聞きたいと思っています。

住基ネットの関係で63万円、それと51ページの公債費、これは総務課長になるのかな、公債費で70万4,000円を流用していると、予備費から。これは私は第一読会でも言ったんですが、予備費はこういう形で使うべきでないということを申し上げました。ほんで、この流用措置をしたのが多分新年度に入ってでないかと思うんですけども、新年度に入って気がついてやったのかどうか、そこらを聞きたいと思います。

それと、これあえて副町長に聞きたいんですが、この予備費の使い方について、これが本来の予備費の使途として適正であるかどうか。私が感じる場所は、突発的な事故とか災害、そういうときに今まで使った経緯はあると思うんですけども、こういうような多分予算の誤りを予備費で充当するということはかつて私は聞いたことがありませんので、そういうことで使っているのかどうか、その点についてあえて副町長さんにお聞きしたいと思います。

○議長（鄧 公一君） まず、山田企画総務課長。

○企画総務課長（山田 徹君） それでは、ご質問にお答えいたしたいと思います。

まず最初に、不用額幾らかというふうなご質問であったかと思います。

一般会計での不用額でございますが、1億8,573万2,203円でございます。決算書の

一番最後のページ，それぞれの各会計の最後のページの不用額に入っておりますので，ほかの分につきましてはまたご確認をいただけたらありがたいかと思います。

あと，２点目といたしまして，不用額が非常に大きいと，この分について今後の支障が，予算執行についてかとは思いますが，支障がないのかというふうなご質問であったかと思います。

基本的には残った分につきましては決算額で繰り越しされた分になります。繰越金といたしまして基本的には今後の補正予算対応の留保財源というふうな格好で執行していきますので，当初予算を立てる時点で不用額がそういうどのぐらいを出るかという部分でその見込みと若干違えば財源の見込みのところで若干の影響はある可能性がありますけれども，現在のところは大きな支障は出ないものかなというふうには感じております。

あと，予備費の流用の件でございます。

私のほうにご質問になられとんのは公債費の分であろうかと思います。公債費の償還に当たって元金と利息との予算組みが間違っていたということでご説明，第一読会でもさせていただいたとは思いますが。基本的にこれについて，予備費の充用をすることについては４月入ってからの決定とさせていただいております。発覚というか，わかったのは３月の償還の時期ではございましたが，そういうふうなことでございます。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 住民課長。

○住民課長（中瀬弘晴君） 個人番号カード交付事業交付金に係る予備費の充当でございますが，発覚したのは新年度に入ってからでございます。繰越事業となっております分が予算計上できておりませんでしたので，その分予備費を充当させていただいております。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 続いて，藪下副町長。

○副町長（藪下武史君） 今，国清議員さんのほうから予備費の関係についてご質問があったと認識しております。

予備費の関係につきましては，本来でありますと先ほど国清議員さんがお話しされ

たように突発的な事項、こういったことに対するのが通常想定されるものでございますが、今回そういったことの状況の中で法律上、法令上はなかなか、通常の形としては議員からおっしゃったような流用の仕方が適切であろうかと思いますが、今回の件に関しましては突発的なこともございまして対応させていただいたということで、法令上は違反ということではないというふうに認識しております。

○議長（笹 公一君） 国清議員。

○7番（国清一治君） それぞれから答弁をいただきましたけれども、特に私が不用額でちょっと気になっておりますのは臨時雇い賃金、需用費等で不用額が出ている。これは十分な精査ができてない、これは担当者段階の問題だと私は思うんです。たしか70万円ぐらい臨時雇い賃金が残った、あると思うんですけれども、大体新年度予算組むときにこの予算見込みを立てないと組めないと思うんです。不用額を70万円も80万円も残しといて組めないと思う。

ほれと、臨時雇いやったらもうあと2カ月ぐらいは見込めると思うんです。賃金ですから、必要以上に出てくる場合がないと思う。だから、私はどない考えても臨時雇い賃金あたりが非常に多く見積もっていると。大体、月計算である程度正確な数字が賃金あたりは出ると思うんやけど、ほれが予算で大きくとって残している。僕が気になるんは不用額を何で整理できんのかいなど、これは事務的な段階でせないかんし、課長がチェックしとうし、最終的には総務課長がチェックするし、町長が最後に決裁してこれ出されとると思うんですけれども、ここらが全くチェックできていない。需用費についてもそうだと思う。これらはもう予算執行上に余り査定段階が機能してないんじゃないかと思うんです。

ほんで、もう一回総務課長に聞きたいんです。今の査定段階は従来だったら総務課長査定、助役査定——今副町長ですが——、町長査定という3段階にあって、そういう段階を経て予算ができているんですが、今多分3人が同時にやられているんじゃないかという感じがしますが、そこらがどういうシステムでやられてるのか。

ほれと、予備費の流用や、これ全く間違いだと思うんです。ほくらについて町長にもう少し決算認定出す場合にほくらがチェックはできていないと思うので、議案を出された町長に今後どうしていくのか、こういうことがあっていいのかというあたりを答弁を願いたいと思います。

○議長（笹 公一君） 山田企画総務課長。

○企画総務課長（山田 徹君） 予算査定の現在のシステムというふうなことのご質問であったかと思います。

ちょっと私も実際には補正予算の分しかやっておりませんので、それがされてきたというふうな前提でちょっとお話しさせていただきますが、現在は担当者が1回チェックして、その後総務課長、副町長で査定をやっております。最終的に政策的な部分も含めて町長査定を行うというふうな格好で、担当者段階をのけると2段階で行っている状況でございます。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） おはようございます。

決算認定につきましてのご質問でございます。

先ほど来、不用額のことについては質問をいただいております、いろいろ答弁をさせていただいているところでもございますけども、特に予備費につきましては突発的な事案に使うというのが本来の基本だというようなことでございます。これはそうした認識のもとでいろいろ多様的にやってるところもございます。

今回の予備費の流用についてのチェック、先ほど言いましたように3段階にわたってチェックをしておりますので、決して、ただ事務的な処理の仕方もうちょっと勉強する必要があるんでなかろうかというように思いがいたして、2月で落としとくとかというような所作も必要でないかというように思っております。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 町長、今言いよるのは不用額のほうやったけん、今予備のほうもちょっとという話ししとったろ、やけん予備のほうじゃなくて不用額。

○町長（中田丑五郎君） 不用額につきましても、当然3月、落としとくということも必要でないかというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 大西議員。

○10番（大西一司君） それでは、私のほうからも決算認定について質疑をさせていただきます。

建設課と企画総務課にお伺いをいたします。

第一読会でいろいろ時間が足りなんだんですが、かけて、一番問題というか、協議内容に時間とったのが宅地造成の件でございます。現在、多額の予算を計上して、そしてはっきり言うて赤字の内容で、それでも半分しか売れてないという状況下、この原因は何にあるのか。もちろん募集要項のハードルが高いとか、それとかもう一点は基本的に横瀬地区にトライアルとして造成して、その結果を見て以後を進めていくという町長の方針、上のほうがやっぱり人口減少が多いんで、できるだけ上のほうにも人口もふやしたいと。そういう意向はよくわかるんですが、結局今の段階になってもこういう状況、売れ残り、29年度も予算を計上してる中で見通しがまだ全然立たない、どうすべき。余りにもちょっと状況は先が見え過ぎてない、見えてない、全然、そういう状況を今後どういう計画で取り組むのか。町長はこの前公約で全町的に場所を考えるというような文言が入ってございましたけども、どういった今後の取り組みをなさっていくのか、再度ちょっとお伺いしたいと思っております。

建設課には、さき申しましたように四戸毎の事業を行うに当たってかなりの、はっきり言うて赤字となっております。今後こういう状況でも取り組んでいくのかどうかという、我々にとったらちょっと無理があるなという感じがするんですが、その点についての課長としての見解を伺っておきたいと。町長にはそういう今後の場所的な問題も含めてどういった計画で進めていくのかお伺いしたい。

企画総務課においては、一方の賃貸の民間による建設の補助金の計画、これも遅々として進まない状況であります。どこに原因があるのか、そしてこれ今後どういった取り組みをしていくのかをまずお伺いしたいと思います。

この2点については、私は地方創生の本当にポイントがあると思っております。このことが成功しない限り、町の発展はないとまで私は思っております。道路網の整備とあわせて住環境の整備、この2点はどうしてもやらなければ町の活性化、発展はないと思っております。ご見解を承ります。

○議長（鄧 公一君） 柳澤建設課長。

○建設課長（柳澤裕之君） 質問にお答えいたします。

28年度におきまして四戸毎の宅地造成をやりまして、2戸が売れております。あと2戸につきましては、現在のところ募集いろいろしておりますが、何件かの問い合わせ



せ等があります。そこで現在において不動産屋さんに依頼をかけて頼んで売却をしていただくような形の伺いを回しておりまして、それを執行していきたいと考えております。

○議長（笹 公一君） 赤字になっとなやけど赤字でも続けるんかどうか、その見通しを聞きよと。赤字でもどうするんやと。

○建設課長（柳澤裕之君） 今後につきましては、赤字にできるだけならないような方向で模索していきたいなとは考えております。

○議長（笹 公一君） 29年度は町長に。

○建設課長（柳澤裕之君） 以上です。

○議長（笹 公一君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） ご質問にご答弁申し上げます。

宅地の造成につきましては、第一読会でもいろいろとお話も質問をいただきまして、平成29年度の事業につきましては横瀬地区に限らず、全地区でやっぱり分譲できる、そしてまた販売ができる宅地造成をやっていききたいということによりまして最大の懸案でございます人口増につなげられるような施策を講じていきたいという考え方でございます。

当初につきましては、横瀬地区の人口偏在をどうにかしたいという思いで、横瀬地区にとりましては一等の地区であると、一等の場所も地区でもあるというような認識で完売するのは間違いないだろうなという思いがございました。その考え方が少し甘かったのかなという思いでございます。

現在、残っておる2地区画につきましては条件緩和するなりしながら、その辺の検討もしながら、いずれにいたしましても完売することによりましてさらに今後の展開が開けるような造成をやっていききたいということでございます。

29年度につきましては、現在11月ぐらいのめどにいろいろな方針も決め、宅地造成を実行していきたいという考え方で取り組んでいるところでもございます。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 賃貸住宅の件については、石木室長。

○地方創生推進室長（石木正昭君） 賃貸住宅のご質問についてご答弁させていただきます。

建設補助のほう、ちょっと実績のほうなかなか伸びずにこういう状態となっておりますが、その原因としてただいま考えておりますところがまず周知不足かなと、また繰り返し周知をして建設補助の実績の伸びに努めてまいりたいと思います。

それで、当然民間の方の建設のご検討ということで、考えられるのがやはり勝浦町の立地条件とかでなかなか経営が難しいと、そういうふうに多分お考えなのかなというところで、またちょっと改めまして分析ということで進めまして、できるだけ実績が伸びるような格好で取り組んでまいりたいと考えております。

答弁とさせていただきます。

○議長（節 公一君） 大西議員。

○10番（大西一司君） 課長のほうからは業者を通じてのノウハウを生かした販売を新たにしていきたいというようなことであるんですが、そもそも町長のほうから見込み違いもあったりというようなことでもありました。

結局、今の企画総務課のことにもつながるんですが、全体を考えてみてもニーズは私は十分あると思ってますし、今の住宅の、町営住宅も含めてほかの民間の住宅もほとんど埋まっている状況でありますし、まだ足りないような状況でもあると思っております。だから、企画室長の言うたような話は余り我々としてはちょっとそういう考えではなかなか前へ進まんのではないかというような気もしております。

この取り組み、町長、全町的に、そして11月をめどにという言葉、答弁なされましたけれども、具体的にもう水面下では進んでおらなければそういう答弁にはならないと思うんですが、計画が水面下で進んでおるのでしょうか、どうなのでしょう。その点、課長のほうからちょっと答弁願いたいのと、言いにくかったらそれは町長でも結構です。

この問題はやっぱり反省を含めて新たにひとつ方向転換図ってでもいいんでないかなって。特に、あとの民間の援助、補助300万円という多額な援助を出してもそういうなかなか実績が上がらないということ。私はこの案件、私自身も提案させていただきました。十分食いついてくるんじゃないかというようなことでもあったんですが、いろんな諸条件、今言われた、立地条件によってペイできんのではないかという考えは、それは余り私は当たらんのではないかというような感じでおります。結局、億に近いお金が建設費がかかるんで、取りかかる人は本当にずっとそれだけの多額の金額、なか

なか、特に農地を持っておられる農家の皆さん方についてはびっくりするような金額でありますし、なかなか本当に取りかかれないのが実情でないんかいなと思います。ならば、再度どうしても必要であれば町営住宅建設ということも考えてもいいんじゃないかというような思いも一部にはしておるんですが、この点についても町長のほうからちょっとご所見を伺いたいと思っております。

以上です。

○議長（笹 公一君） 柳澤建設課長。

○建設課長（柳澤裕之君） 議員おっしゃる平成29年度の状況ということですね。

それで、町長さんもおっしゃったように11月ごろということで、私どもの今事務方サイドといたしましては町長さんが横瀬地区だけでなく全町を見据えてという形でというふうなことで、私どもも全町を対象に目を見張らせてみまして、何カ所かピックアップさせてもろて下調べとかはやってます。ほなけん、だから下調べをして結局農振地とか、それからいろんな縛りがどうしても土地にはありますんで、ほのあたりの調査なりをしながら、このあたりはどうかなとかいろいろ検討をしております。

その中で、やはり物件いろいろありますんで、例えば面積が広がったりするんで、ほの場合については今回の29年度予算ではどこまでできるのかとかというふうなこととか、それからまたは多年にわたって計画するべきかなとかいろんな模索を現在はしております。

以上です。

○議長（笹 公一君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 今、課長が答弁したことは打ち合わせしておった結果の話でございます。特に議員がご指摘いただいたような町営の住宅ですか、町営住宅という、今のところ町営住宅は私の検討には入っていないというのが現時点では、あくまでも移住なり定住なりしていただきたい、そのための分譲としてやっていきたいという考え方を現在のところは持っております。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 賃貸住宅のほうについても町営住宅するという話はないということやね。

○町長（中田丑五郎君） 賃貸のほうですか。

○議長（笹 公一君） 町営住宅は。

○町長（中田丑五郎君） 賃貸住宅については、まだ今のところ20戸の造成ができておりまして、その後賃貸については私自身は今のところ考えはしておりません。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 井出議員。

○9番（井出美智子君） 国民健康保険特別会計について質問します。それと、もう一つは勝浦病院についてですが、一般質問でも繰り返し質問を行いましたが、県との広域で一体どうなるのかということがいまだにはっきり明確に県からも示されておりませんが、この繰り越しと基金を潤沢に持っている勝浦町にとって町民に不利益にならないような施策というのが本当に求められていると思います。

これを見ると、決算を見ますと、予算に対して支出済みの金額が非常に低いわけです。だから、国保税を町民から取り過ぎているのではないかということが数字上からも出てきているわけです。このことをしっかりと踏まえて来年度の予算を立てなければならないと思いますが、29年度の決算、それから広域化に向けてどのようにこの事実をお考えでしょうか。まず課長、そして町長にお尋ねします。

○議長（笹 公一君） 病院のことは、一緒に。

○9番（井出美智子君） 病院についてですが、病院改築検討委員会と病院の建物についての予算は支出というか予算計上、支出されておりますが、一番大事な人的保障についての予算化というのが必要ではないかと思います。次の医師、勝浦病院を新築して中身を充実させていく人に対する予算をきちっと確保して、そのためにそれを有効活用して医師や看護師、さまざまな人材を獲得する必要があるのではないのでしょうか。これまで建物だけしか予算が立てられておりません。だから、29年度いろいろ取り組みも行われておりますが、この29年度の決算状況を踏まえて30年度にはしっかりと未来の勝浦病院を担ってくれる人材育成のための予算が必要ではなかったのかと、この28年度の決算状況とか29年度のいろいろ見て、痛切に考えているわけです。このことについても担当課長と町長についての見解をお尋ねします。

○議長（笹 公一君） 久木税務課長。

○税務課長（久木喜仁君） それでは、お答えします。

支出の減少についてと、それとあと県への広域化に向けての今後の見通しだという

ふうに思っております。

支出の減少でございますけども、確かに28年度の決算については減少はしております。ただ、これが保険料に結びつけていいかどうかということでございますけども、それにつきましては本町の場合は大きな繰越金を当てにしまして、それによって保険料を算出しておりますので、支出が下がったからといって保険料を直ちに下げるといふような議論にはすぐにはならないと思いますし、一旦また下げたときに再度経済状況であったりとか歳出の給付費の増減によって余り大きな増減があったらいけませんので、これについては慎重にするべきかなというふうに思っております。

それからあと、県との広域ですけども、先日の新聞にも報道されておりましたけども、本町の場合については減少するというふうな報道がございました。ただ、あれもよく調べてみますとあくまでも税収の減少でありまして、税率の減少とは書いておりません。ですので、うちの27年度の給付費の伸びであるとか、税収がどうであるかというだけの比較でありまして、税率についてはまだ確定はされておられません。今、私の担当のほうでこれが30年度にどのように影響していくかということにつきまして詳細に調査をしておりますので、来年度の予算のご提案のときまでには議員の皆さんにお示しできるかなというふうに考えておりますので、そのときに改めて詳細は説明させていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（鄧 公一君） まず、この件について、国保税のことについて、中田町長。

○町長（中田丑五郎君） ご質問にご答弁申し上げます。

国保事業につきましては、引き下げというようなことを議員さんからたびたび申し出がございます。今の現在の状況から見ますと基金1億円持ってはおりますけども、将来的に考えた場合、単年度ではかなり厳しい状況がなお続いているところでもございます。今担当課長から申し上げましたように、30年度には広域化が図られるというようなことでございますので、先行きが少し不透明なところございますので、そうした状況も勘案しながら今後の対応もしていきたいなということでございます。

いずれにいたしましても、医療費の減少を図ること、特定健診初め、受診率を上げることによりまして負担の軽減を町といたしましても図っていきたいという思いがいたしておるところでもございます。

病院につきましても、地域医療を考えるいろいろな会を議員さん初め実施もしていただいております、非常に前向きにやっていただいておりますことに対しましては感謝を申し上げるところでもございますし、今後とも次代を担う若い先生方の病院の勤務というようなことも熱心に考えていただいております。今度ともこうしたことにつきましても町も支援しながら取り組んでいきたいという思いがいたしております。

以上でございます。

○議長（節 公一君） 笠木病院事務局長。

○勝浦病院事務局長（笠木義弘君） 人材確保に対する取り組みに対しての予算を持てばどうかというふうなご提案だろうと思います。

病院としましては、当然医師でありましたり看護師でありましたりという人材の確保は必要であります。そこで、今企画総務課地方創生推進室のほうで医師確保については担当として行っているところでありますので、特に看護師等につきましても予算につきましては財政当局と相談しながら今後どういうふうに進めていくのか、協議を進めてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（節 公一君） 同じことについて、中田町長。

人材確保のことについて、28年度の決算を鑑みて29年度はこれにしたらどうか、町長の見解をとという質問が出てます。

中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 先ほど地域医療を含めていろいろ施策も講じているというようなことで、人材育成も非常に大事なことでございます。今年度1名先生が増員しておりますし、町民の皆様方からは非常に小児科の先生方とかという話は会議でも再々出ております。実現できればいいなと思うんですけども、なかなか難しいのが現状でございます、努力はしなければならないんじゃないかという思いがいたしております、今後とも人材育成に取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（節 公一君） 井出議員。

○9番（井出美智子君） 中田町長、お風邪を召して少ししんどそうなので、答弁も非常に残念な答弁でございました。やっぱり4期目を目指す町長といたしましては政

治生命をかけて町民の皆さんのご要望にお応えする若い医師の確保を実現したいと思  
いますという答弁がやっぱりこの場で必要でなかったかと私は思っております。

それともう一点、私の記憶違いでなければ国保の問題も石井町はたしか広域化を踏  
まえて持っているお金を町民に還元するという事で思い切った減額も行っておりま  
す。だから、やっぱり町民にいかに優しい町政にするか、ここできちっと姿勢を示す  
ことが町長としてあるべき姿勢だと私は思うわけです。

課長の皆さんも町長の一言があればもっともっと町民のために働けるのではないか  
ということはこの決算審査の答弁の中でも実感しておりますので、しっかりと私たち  
議員の受けとめて、ぜひ、今までの町長の答弁ではやっぱり議員の心、町民の心を動  
かすことはできません。票をもらうというのはやっぱり心をもらうことだと思うの  
で、一言一言やはり町民に勝浦町をこんなふうによくしていきたい、役場の職員に対  
してもこういうふうに働いてほしいという町長の意思をもう少し明確にさせていただけ  
れば町長選挙に向けての中田町長が光ると思います。

○議長（節 公一君） 答弁要る。

還元することについてどう考え持っとるかということ。

中田町長。

○9番（井出美智子君） 期待した答弁を欲しいな。

○町長（中田丑五郎君） 議員さんいろいろとおっしゃっていただきました。できれ  
ばそういう答弁が理想的な答弁だということは十二分に知っております。しかし、会  
計を預かっておりますので、先行きの見通しも立てながらしっかりと町民の皆様方の  
安全で安心、そして健康なまちづくりに努めていくのが私の課せられた大きな役割だ  
と思っておりますので、そうした方向でしっかりと皆様方の安全・安心なまちづくりに  
努めてまいりたいと思っておりますので、どうかご支援いただきますようお願い  
を申し上げます。ありがとうございました。

○議長（節 公一君） ほかに質疑はございませんか。

ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（節 公一君） 質疑なしと認めますが、次に自由討議を行うかどうか、自由  
討議を希望される方おられますか。

（「なし」の声あり）

○議長（節 公一君） 自由討議なしでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（節 公一君） それでは、議事日程の都合により休憩いたします。

午前10時14分 休憩

午前10時59分 再開

○議長（節 公一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

審査報告書をまとめましたので、会議規則第35条の規定により事務局長に朗読させます。

河野事務局長。

○議会事務局長（河野稔彦君） それでは、事務局から報告をいたします。

平成28年度決算審査結果、特に留意すべき事項でございます。

まず、総括。各課ともに不用額が多い。適正な予算と事業執行に努められたい。時間外勤務の削減を図られたい。

福祉課。保育料の過年度分滞納者に対し適切な対応をとられたい。買い物バス事業はひきこもり対策として効果は認められるが、タクシー料金より割高なので利用者増を図られたい。介護保険特別会計については、基金も底をつき、財政状態が逼迫している。健全化に向けた対策が必要である。

住民課。男女共同参画事業については、より研修内容を充実されたい。

産業交流課。婦人の家と改善センターの有効利用について周知を徹底されたい。農業振興補助事業について、JA受け付け分の申請方法の改善を図られたい。

続いて、税務課。賦課業務のチェック体制の強化と職員研修によるスキルアップを図り、事故再発防止に努められたい。滞納整理機構の活用成果は上がっているが、さらに有効な今後の方針を立てられたい。

続いて、教育委員会。定例教育委員会の情報公開を図り、傍聴しやすい環境にすべきでは。

建設課。宅地造成事業の経費、販売方法を再検討する必要がある。候補地選定も含め、改善すべきでは。簡易水道の施設補修工事については長期的計画を策定する必要がある。



続いて、企画総務課。賃貸住宅建設助成事業が未執行となっている。問題点を検証し、取り組まれない。国の政策によるシステム改修費の町費負担は、他町村と比較し、適正かどうか判断すべき。町のPR動画を多くの人に見てもらえるよう活用方法を検討すべき。予備費の流用は適切に執行すべき。

続いて、勝浦病院。病院改築に向けて医師確保に町長みずから具体的な行動を起こすべき。

最後に出納室。公有財産管理システムサポート委託料金について検討されたい。

以上でございます。

○議長（節 公一君） 各課長は以上の件について十分に留意され、改善に取り組んでいただきたいと思います。

お諮りします。

認定第1号、平成28年度勝浦町各会計歳入歳出決算についてを第三読会に付することに異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（節 公一君） ご異議ありませんので、本件は第三読会に付することに決定いたします。

これより第三読会を開きます。

認定第1号の討論と採決を行うことに異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（節 公一君） 異議ありませんので、一括して討論と採決を行うことに決定いたしました。

これより討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（節 公一君） 討論なしと認めます。

これより採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本件を認定することに賛成の方はご起立願います。

（賛成者起立）

○議長（笹 公一君） 賛成者多数と認めます。したがって、認定第1号、平成28年度勝浦町各会計歳入歳出決算の認定については認定されました。

～～～～～～～～～～～～～～～～

○議長（笹 公一君） 次に、日程第4、平成29年度勝浦町一般会計補正予算（第2号）及び平成29年度勝浦町病院事業特別会計補正予算（第1号）の訂正についてを議題といたします。

町長から本件の訂正の説明を求めますが、その前に資料を配付いたしますので、少々お待ちください。

それでは、町長より訂正理由の説明を求めます。

中田町長。

○町長（中田丑五郎君） それでは、上程をいたしております議案につきまして修正につき提案をさせていただきます。

議案第3号、平成29年度勝浦町一般会計補正予算（第2号）について及び議案第6号、平成29年度勝浦町病院事業特別会計補正予算（第1号）について訂正の理由を申し上げます、おわびをいたします。

議案を撤回し、修正の上、再提出したいと思っておりますのでご承認いただきますよう提案をさせていただきましたので、よろしくお取り計らいをお願いを申し上げます。

それでは、議案第3号の修正案につきまして説明をさせていただきます。

議案第3号、平成29年度勝浦町一般会計補正予算（第2号）につきまして、歳入歳出予算の補正額でございますが、3,738万3,000円を追加し、歳入歳出予算総額を35億9,864万1,000円とすることにいたしておりましたが、本日お手元に配付させていただきましたように修正後は補正額を3,708万5,000円を追加し、歳入歳出予算総額を35億9,834万3,000円とさせていただきます。

次に、議案第6号の修正案につきましてご説明をさせていただきます。

議案第6号、平成29年度勝浦町病院事業特別会計補正予算（第1号）につきまして、企業債の限度額の補正が提案できていなかったため、原案を撤回し、本日お手元に配付させていただきましたとおり修正の上、再度提出したいと思っておりますので、ご承認くださいますよう提案を申し上げます。

なお、詳細につきましては、担当課長から説明をいたさせますので、ご審議をいただきまして、ご決議賜りますようお願いを申し上げまして、提案理由の説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○議長（鄧 公一君） 続いて、詳細説明を担当課に求めます。

笹山教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（笹山芳宏君） 詳細説明をさせていただきます。

先般、阿南方面通学車両のバスにつきまして、下取りに出して新しいバスを購入する旨の補正予算を提案しておりましたけれども、このバスにつきましては売り払いまして、下取りに出すことは中止するという事で再度提案を申し上げる内容でございます。

予算書の7ページでございます。

15款の財産収入、2項財産売却収入で物品売却収入250万円の入を予定しております。

それから、9ページでございます。

2款総務費、2項企画費、1目企画費の13の委託料でございます。24万4,860円の阿南方面通学車両業務委託、増額分として一月分、10月分の増額をお願いするものでございます。それから、18の備品購入費で118万5,000円の減額補正をお願いするものです。これは阿南方面通学車両の購入費の実績による減額でございます。それから、19の負担金補助及び交付金でございます。これにつきまして、4月分の実績によりまして20万3,000円の減額と11月から3月末までの阿南方面通学車両運行費の補助金として126万5,654円を補正するもので、その差し引きとして106万3,000円の増額補正をお願いするものでございます。

以上、詳細説明とさせていただきます。

○議長（鄧 公一君） 続いて、笠木勝浦病院事務局長。

○勝浦病院事務局長（笠木義弘君） 平成29年度勝浦町病院事業特別会計補正予算（第1号）について詳細説明をさせていただきます。

第3条として企業債の限度額について補正を追加訂正するものでございます。

さきに説明させていただきました補正予算にはその財源としまして企業債の600万円を計上していますが、当初既決予算では企業債の限度額が不足しているため、既決

の限度額に本補正予定額の600万円を追加し、限度額の合計を769万4,000円とするものでございます。

事務局としての提案漏れでありまして、大変申しわけございません。ご決議よろしくをお願いしたいと思います。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） お諮りします。

ただいま議題となっています平成29年度勝浦町一般会計補正予算（第2号）及び平成29年度勝浦町病院事業特別会計補正予算（第1号）の訂正についてを許可することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（笹 公一君） 異議なしと認めます。したがって、本件を許可することに決定いたしました。

これより質疑を行います。

質疑のある議員はご発言をお願いします。

一般会計、病院事業特別会計ともにあわせてで結構です。

○7番（国清一治君） これ第一読会。

○議長（笹 公一君） 第一読会とは言えませんが、第一読会と同じような形で、何回でも結構ですし、着席したままでお願いします。答弁も着席したままで結構です。

質疑ありませんか。

3番美馬議員。

○3番（美馬友子君） 病院のほうでお伺いしたいんですけど、予算のフローシートとかはないんですか。それで、過疎債のを借りるんだったら上限設定、私、専門家でないんでわからんで、必ず要るということはチェック漏れがあったのにこうやって議案に通った。どうしたらこんなことが起こるんでしょうか。

○議長（笹 公一君） 笠木病院事務局長。

○勝浦病院事務局長（笠木義弘君） 予算書の作成については書籍等であります。ただ、もうこれ大変申しわけないんですけども、事務方、私のほうのミスということになろうかと思います。ということでございます。

○議長（笹 公一君） 美馬議員。

○3番（美馬友子君） この間の第一読会の後に役場の職員の誰かが気がついたということですか。

○議長（笹 公一君） 気がついた時点。

笠木事務局長。

○勝浦病院事務局長（笠木義弘君） 第一読会の後にチェック漏れを見つけたということでございます。

○議長（笹 公一君） 美馬議員。

○3番（美馬友子君） このように議案書等、上がってくるのは最終チェックは誰が行っているのでしょうか。

○議長（笹 公一君） 山田企画総務課長。

○企画総務課長（山田 徹君） 基本的には予算査定、総務課のほうで行います。査定後、今回の見落としにつきましては病院会計、企業会計というふうな特別な事情があったというのが一つの原因ではございます。そこまでチェックするのは当然の話なんではございますけれども、病院会計、企業会計について見識が深くない者が非常に多い、病院にいたことがない者が非常に多いふうな中で一般会計と同じように限度額の設定を必要というふうなところの見落としがあってしまった。

財政当局といたしましては、企業会計も基本的にはやはりある程度わかるような勉強が必要であったのかなというふうには反省はいたしております。どうしても皆様も見えていただいておりますように、企業会計のほうにつきましてはあくまで計画書というふうな表現になります。決算になりますと企業会計のほうは複式簿記でいきますので、バランスシートなりそういうふうな計算書なりをつけていくようなことでありまして、役場の職員といたしましては単式が基本になっておりますので、そこまでの見識が非常に薄かったというふうなことが原因だと思います。

今後につきましては、よりそこらについても勉強させていただきまして、チェックを強化していくようなことで努力させていただきたいと思いますので、ご理解いただけたらと思います。

○議長（笹 公一君） 美馬議員。

○3番（美馬友子君） この時代なんで、予算書のフローシートがなかったも予算書

のシートがあるわけなので、もう最低こことここは色がついたら入力をとか、いろいろ通販でもほんなところがあるじゃないですか。ほんなふうには役場の事業はできないんでしょうか。

○議長（笹 公一君） 山田課長。

○企画総務課長（山田 徹君） 一応コンピューターシステムで財務会計というのは病院につきましても一般会計につきましてもございます。ただ、先ほど申し上げましたように複式と単式というのでシステムが本来違っております。それと、議会に提出する予算の様式、前のほうにつきましては機械で出ない部分でございますので、ワープロ打ちというか別につくっていくような状況がございます。そこはやはり職員のチェックと知識がどうしても機械ではカバーできないところなので、機械だけでできるもんでない部分を落としてしまったということなので、より職員の勉強と反省とのもにできるだけ落ちのないようにさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 美馬議員。

○3番（美馬友子君） 専門家でないんでわからないんですが、見落としがあるということはやっぱそれぞれがマニュアルをチェックできとかできてないかということなんで、もう少し今課長がおっしゃったように努力して、ぱっと見たらこれが抜けとるなというんがわかるような職員体制にもしてほしいなと、人材育成にお願いしたいと思います。

○議長（笹 公一君） 答弁ええ。

○3番（美馬友子君） いいです。

○議長（笹 公一君） 麻植議員。

○4番（麻植秀樹君） 物品売払収入ということで250万円、今おっしゃったんですけども、これ250万円で完全に売り払い金として入ってくる金額ですか。これはいつまでに売却したときの金額とかというんがわかりますか。必ずこれだけ入ってくると、250万円売払収入として入ってくるわけですか。

○議長（笹 公一君） 笹山事務局長。

○教育委員会事務局長（笹山芳宏君） 見積もりをいただいたんが現在でございます。その折に少なくとも2カ月ぐらい先の話になるというふうなことはお願いして出

してはいただいておりますが、不確定なところがあると。車もずんずんやっぱり値打ちが落ちていくものでございますので、250万円必ずというわけにはいかないかもわからないということはあるかもしれないと思います。

○議長（笹 公一君） 麻植議員。

○4番（麻植秀樹君） 不確定であっても上げているわけですから、いつ何どきこの金額が減額されるやもわかりませんので、金額を発表したときにそういうことは言っただいてもらっといたほうがよろしいんじゃないかと思ひまして、お聞きしました。

以上です。

○議長（笹 公一君） 答弁はええ。

○4番（麻植秀樹君） いいです。

○議長（笹 公一君） ほかに。

大西議員。

○10番（大西一司君） 関連ですが、この件については我々も熟尽で話はそういう売り払うというようなことでしておりますが、その後、保護者と協議をしたというのが新聞で載っておりましたけども、保護者会との話の内容でどのような内容であつて、そしてその内容に全て保護者会としては了解をいただいておりますのか、どうでしょうか。

○議長（笹 公一君） 笹山事務局長。

○教育委員会事務局長（笹山芳宏君） 9月20日午後8時から図書館の2階の視聴覚室において保護者の方への説明会を開催いたしました。保護者のほうからは会長の廣瀬さんを初め、9名の方がご出席いただきまして、今までの経緯等をご説明して、議会の予算が通ってからですが、11月からをめぐり昨年度のような保護者の主催によるバスの運営をしていただいて、それに対して役場から、教育委員会から補助金を出させていただきたいというふうな変更をお願いしたところ、保護者の方、途中私たちも退席もしまして、保護者の方でご相談もしたようですけれども、おおむねそれで受けていただけたというお話をいただきました。

○議長（笹 公一君） 大西議員。

○10番（大西一司君） 何か保護者のほうから希望は、それとか心配事というの

は、何かそういう話はなかったのでしょうか。

○議長（笹 公一君） 笹山事務局長。

○教育委員会事務局長（笹山芳宏君） 希望といたしましては何点かありまして、チケットの購入先を、例えば道の駅とかでしてもらえるようなことも検討していただけないかと。よそでお願いする場合には経費が必要なので、その経費を出していただきたい。それから、来年度以降の方針を教えてほしいと。車を売るのはもったいないんでないだろうかとか。それから、横瀬観光への支払いが一月ごとなので、一月ごとに補助金が欲しいけれども、昨年同様で4カ月ごとに払うことになるのなら横瀬観光に支払いを万円ってもらえるように教育委員会からきちんと話をしておいてほしいとか。小・中学生へ向けた阿南行きのバスの説明会をこの秋ごろに実施してほしいというふうな内容でございました。

○議長（笹 公一君） 大西議員。

○10番（大西一司君） いろいろな要望あって、もちろんそのことに対しても対応、答弁もしたと思うんですが、今までおっしゃった点、そういう要望に対しても答弁をして了解を得とるわけですね。了解としていただいとるわけやね。

○議長（笹 公一君） 笹山事務局長。

○教育委員会事務局長（笹山芳宏君） ただいまの4点につきましては、また教育委員会のほうで持ち帰って検討させていただいて回答させていただくということで、今持ち帰って検討させてもらっている段階でございます。

○議長（笹 公一君） 大西議員。

○10番（大西一司君） 基本的にはこの件についてはこれで收拾されようとしとんですけど、余りにもこのことだけでなしに役場内のそういうガバナンスとか手順とか、これでこんなんでよかったのかなと思う以上に、起こるはずがないようなことが起こるとということで、本当に町長含め猛省してほしいと思います。

今までにもいろいろ協議もしてきたし、我々も言うてきたんですが、このこととか町税の未収問題とかで本当に町民の皆さん方はたびたび新聞に載るんで、最近、本当に疑心暗鬼というか、いけるんかいなというような声をよく聞かれます。こういったことを払拭するためにも今後きっちりとした行政運営というか、施策、役場内のそういったひとつガバナンスを徹底して行政に当たっていただきたいと思うんですが、



この件について町長はやっぱり、これが認められればこれで一件落着ということになるんですが、町長として町のおさとしてこの問題については何らかのそういう反省というか、町長としてのお気持ちを示すべきでないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（節 公一君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 当然一定のけじめといいますか、終わりましたら何らかの形あるものとしてしていかなんだらいかなんと、反省もすることも非常に大事なし、議員ご指摘のように町民の信頼を非常に大きな失墜したというところもございますし、町民に信頼されてこそその行政でございます。そうしたことがないように今後とも緊張感持って事故再発防止に努めていきたいという気持ちにかわりはございませんので、今後とも職員一丸となってそうした信頼回復に向かって一生懸命に取り組んでいきたいという気持ちは持っておるところでもございます。

以上でございます。

○10番（大西一司君） 終わります。

○議長（節 公一君） ほかにございませんか。

国清議員。

○7番（国清一治君） 大西議員と同じようなことになるんやけど、私が3月会議で議長として恥を忍んで質問した経緯があると思うんです。町を憂うということで、そのときに予算の組み方、余りにも差しかえが多いということで大きなくぎを刺したはずなんですけれども、あのとき町長はもう以後こういうことがないようにというように答弁であったと思うんですけど、結局同じことが起こると。さっきの病院にしたって同じ。複式簿記とほういうんではなしに、ほういう複雑な問題でなしに当然チェックできる問題と思います。私も病院にいたからわかるんですけども。

先ほど修正案としてこれ日程に出されましたね。これを議員は一応認めたと、案を出すことに。基本的に日にちの問題なんやけど、これ12日でええんですか、きょうではないんですか。私、日にち見てびっくりしたんやけど、ほうしとかなんたら一旦開会して議案を通しとんですよ、これ第一読会から。今日12日でしょう、これ12日になつとるでしょう。きょう27日でしょう、27日すべきと思う、これは基本的に。ほうしとかなんたら、もとの議案がなくなったことになる。これも初歩的なミスと僕は思う。

この件に対して提案者はどうですか。改めて出し直したんですから。

○議長（節 公一君） 山田企画総務課長。

○企画総務課長（山田 徹君） 議員さんのおっしゃることも理解できるんですが、本来本会議でなく第二読会に行く前の前提でということで差しかえというふうなお話の見解であったために12日ということで出しております。

○7番（国清一治君） きょう改めて議案として上げてくるのに、ほれは協議しとかなおかしいという。細かいことなんやけんど、多分ほんなところまで配慮はしてないと思うんやけんど。

○議長（節 公一君） 山田企画総務課長。

○企画総務課長（山田 徹君） 訂正の訂正でよろしければ、27のなにでご理解でいただけるのであれば出させていただきたいと思います。

○7番（国清一治君） いや、そうしとかないかんと思う。日程に上げて採決とったということは、これ12日からにしたらもう最初から差しかえしてもうて、ほういうことになると思う。細かい話やからいいんやけんど。ほれは直してください。議長、ほれだけ直してください。

ほんで、これはどうぞご議決されますようにて、町長がこの案について2回きょう言うたんです。差しかえなりほうなるんやけんど。この議会の扱いとしたら動議を出して修正さす方法と、この案ではだめだということで否決する方法と、これ一番恥ずかしいんが差しかえなんです。この選択した経緯は町長どんなんですか。3つの方法があったと思う。

○議長（節 公一君） 小休します。

午前11時34分 休憩

午前11時37分 再開

○議長（節 公一君） 再開します。

中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 小休中に課長のほうからも答弁をさせていただきましたけども、やはり議会とも十分協議をさせていただきまして、訂正というようなことで今回書類を再提出させていただいてご審議をいただきたいというお願いをしたところでもございます。

そうしたことがないのにこしたことはないところでもございますけども、十分チェックもできてなかったと。先ほどの反省すべきことも申し上げましたけども、そうしたことがないようにいつも心がけておるんでございますけども、そうしたことが起こったというようなことは非常にゆゆしきことでございますので、今後とも何遍も申し上げるの、これ反省しとらんのと同様だと言われてもいたし方ないんでございますけども、ないようにチェック体制も厳重にしていきたいなというように思っております。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 国清議員。

○7番（国清一治君） また言います。

○議長（笹 公一君） ほかに。

松田議員。

○5番（松田貴志君） 議案第3号についてお聞きします。

今回の14人乗りの通学バスの売り払いによって結局実質的に町はどれだけの、損害という言い方おかしいのかな、本来ならば要らなかったお金が必要になったのかって具体的な金額のほうをちょっと、計算したら出てくるんだろうけど、今わかっている部分でお教え願えますか。

○議長（笹 公一君） 笹山事務局長。

○教育委員会事務局長（笹山芳宏君） バスの購入が315万円だったので、250万円で売れたと仮定して65万円の損失になると思います。

○議長（笹 公一君） 松田議員。

○5番（松田貴志君） この具体的な金額、またこの間に要したいろいろとの事務的な手続、またそのための時間、大きな時間なりお金も必要となった部分、町長の口からもある程度の時期を見定めてまた何らかのことをするんですよねという先ほど答弁もあったんですけども、またこれ地方創生の委員会のほうでも話ししようと思ってますけども、今後のことについてもやはり一回具体的にこの事業についても深く議論すべきなんかなって私自身は考えております。

今回の反省も踏まえて、この一つ一つの事業を計画する段階からやはりもう少し深く、さらには将来的な計画も将来展望も踏まえながら事業をつくり上げてほしいなと

いう部分は今回私自身感じましたので、理事者の方々に対してももう反省もし、また繰り返さないようにして行ってほしいなと思います。

この点についてもう一点、今回改めて保護者会での運営方式に変わるということで、先日の新聞報道でもあったように保護者の方からしたらこの春から少し負担が減っていった。しかしながら、また昨年度の方式ですることによって負担がふえるという部分で保護者会の代表の方も意見を出しておられたようですけれども、現状、私的な、これは主観と言うたらおかしいけど、私はある程度の負担は保護者会にはお願いすべきなんかなと思ってます。特に今回こういう形で新聞紙上に具体的な金額も添えられながら、町民の方にもこういう事業でこれだけの金額が阿南方面のバスにつぎ込まれてますよということを大分広く知れ渡った中で、これ以上行政のほうに負担をふやすということに対して、ただでさえ公平性の観点からいろいろと疑義がある問題の中で、もう行政としてはここまでしかできませんよというある程度の線というのは引っ張っておかなんだら、これから事業を継続するに当たってもやはり保護者会との議論の中で継続するんやったらちゃんとこんだけをお願いしますよという部分はまとめといてください。ある程度しといてもらいたいと思います。

もちろんこの事業の必要性、現時点での必要性は認識をしておりますけれども、私自身実際これだけの金額をするだけの事業なんかなという部分、もっともっと議論したい立場でございますので、これから今要望出ている何点かの保護者会からの要望について教育委員会でまとめるとは思いますけれども、やはり行政としてできる部分はここまでじゃという分はきっちりと示してほしいなって。これ以上行政の仕事、特に教育委員会の仕事をふやすというんもどうかなと思いますし、そこらあたりはしっかりと現状も認識しながら取り組んでほしいなと思いますので、これは要望にしておきます。

以上です。

○議長（笹 公一君） 答弁は両方要らん。

○5番（松田貴志君） 大丈夫です。

○議長（笹 公一君） ほかに。

ありませんか。

質疑なしということでいいですか。

(「なし」の声あり)

○議長（節 公一君） それでは、議事日程の都合により小休といたします。

午前11時44分 休憩

午後 1 時28分 再開

○議長（節 公一君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

~~~~~

○議長（節 公一君） 日程第 5，議案第 1 号から議案第 7 号までを一括して議題とし、第二読会を開きます。

まず、議案第 1 号について詳細質疑を行います。

質疑のある議員は発言をお願いします。

勝浦町子どもはぐくみ医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例であります。

美馬議員。

○3 番（美馬友子君） 議案第 1 号、勝浦町子どもはぐくみ医療費の助成に対する条例の一部を改正する条例について質疑を行います。

勝浦町は平成25年から高校生まで拡大し、中学生から高校卒業までの医療費を町単独で負担しております。今回、県の助成制度が中学生まで引き上げたための条例改正でもあり、町独自の負担の減少が図られるわけですが、その実績見積もりとその額は子育て支援事業として使うべきだと考えますが、どのような事業を計画しているのかということを担当課長及び町長にお伺いしたいと思います。

○議長（節 公一君） 岡本福祉課長。

○福祉課長（岡本重男君） 議員のご質問でありますどれぐらい町の負担額が減少するかということでございますが、平成28年度決算の金額から計算して推定しますと年間約160万円になります。ただし、その年により医療受診内容で金額が増減することになりますので、参考としての金額となることをご理解をお願いいたします。

また、その負担が減ったお金を子育て事業のどのようなものに使用するかというご質問であります。現段階では子育て支援の関連事業を充実させることに使うことというのを福祉課長としてはしていきたいと考えておりますが、具体的な事業につきましては今後課内のほうで相談をして、またその後町長のほうへご相談申し上げて決定

していきたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（笹 公一君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 9月会議の議案第1号につきましてご答弁を申し上げます。

子どもはぐくみ医療費の助成に関する条例の一部を改正するに伴いまして年間計算すると160万円ほどの金額になるという見通しでございまして、これをどうしたものに活用していくかというようなことはご質問の趣旨だろうと思っております。

本町におきましては、県下でも先駆けまして先進的に高校生までの医療費の無料化等に取り組んでまいったところでもございます。こうした助成、中学生までになったことによって経費の節減が図られるのであれば、そのお金をさらに子育て支援の充実したものにしていきたいなということでございまして、この点につきましては有効にかつ適切に執行していきたいなと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 美馬議員。

○3番（美馬友子君） 子育て支援として定住対策、人口減少の歯どめにつなげると町長も今言われたし、ここ四国初というて世間にもぎわって、本当に子育て世帯の負担も減って、本当に家族で喜んでいる方が多いと聞いておりますが、具体的な計画はこれからということですが、私が常に言っている障害児、放課後デイにも活用してもらえるとすごくありがたいんですが、我が町は一時保育がありません。ですから、仕事に通っている親御さんのためにもファミリーサポートというて相互間で送迎だったり一時預かりができるということができるよう、もっとファミリーサポート事業を充実するように使いやすいということを広報していただけないかと思います。

先ほども資料としていただきましたが、依頼会員、まだまだ24人、そして提供会員も5人という少ない数の中で運用して、実績は130回ぐらい使われておりますが、やっぱりもっと助け合いの人口をふやして、子育てしやすい環境整備をしていただきたいと考えております。これは提案ですが、確かにファミリーサポート、16万円の負担金で広域でできているということですが、できたら勝浦町として使いやすいように、

実践できるように、本当に保育所の送迎、学童の送迎、それから病院にも送っていきける、そしてまた今はファミリーサポート病後児の研修も受けて、そういう子供さんも見られるということになっておりますので、できる限りそんな支援の策にも使ってほしいなと思っております。

以上です。

○議長（節 公一君） 答弁は。

岡本福祉課長。

○福祉課長（岡本重男君） ファミリーサポート事業でございますが、お話しいただきましたように使いやすい事業として今後より取り組んでいくということで、10月2日には病児・病後児のお子さんを預かる事業も充実してスタートするという体制になっております。それで、徳島市を初め、他の市町村と共同でやっております事業ですので、やはりその事務局と相談しながら勝浦町としてどのように充実させられるかということを経験して、またお母さん方から聞く機会があればやはりそういうどういうニーズがあってどう応えていくかということを経験してみたいなと、担当課長としては思っております。

以上でございます。

○議長（節 公一君） ほかに。

議案第1号について質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（節 公一君） なければ、次、議案第2号についての質疑を行いたいと思います。

議案第2号について質疑のある方。

国清議員。

○7番（国清一治君） 議案第2号について質疑を行います。

これも第一読会で総務課長のほうから概要を聞いておりますが、あえてここでもう一度聞きたいと思いますが、報酬の算定基準というところで第一読会では聞いたと思うんですが、特段決まったような答弁ではございませんでした。私も自治法逐条解説もいろいろ読んでますが、そこらから見てこれ203条の2にするのがいいのかどうか、この根本的な疑問も実はあるんですけれども、そこらはどういう指導を受けてそ

うなったのか。私が知る限りは勝名管内隣接市町村ではこういうことはしてないような話を聞いておりますが、そこらでどっか参考にされたのかどうか、総務課長、答弁をお願いします。

○議長（鄧 公一君） 山田企画総務課長。

○企画総務課長（山田 徹君） まず、先に203条の2でよいのかどうかというお話の答えをさせていただきたいと思います。

こちらのほうにつきましては、以前にも若干申し述べましたけれども、経済産業省の指導が今年度の3月に来られました。その中で委託業務としてはちょっと都合が悪いんじゃないかと、そういうふうな中で経済産業省のほうの指導としては非常勤の特別職として雇用することが妥当でないかというふうなことで指導を受けたものでございます。

自治法の203条の2の規定というのは非常勤の職員に対し報酬を支給しなければならないというふうにされているものでございます。非常勤の職員といいますのは委員のほかその他普通地方公共団体の非常勤の職員というふうに記載をされています。このその他普通地方公共団体の非常勤の職員というのは、地方公務員法で言うと嘱託等の非常勤のものは全て含まれる意であるというふうに記載をされております。これを踏まえて経済産業省のほうからの指導が非常勤特別職として雇用するべきじゃないかというふうな指導であったかと受けとめております。

あと、他のところでそういうふうなことをしているのを確認しているかというふうなことでございますが、こちらのほうにつきましては国からの指導であったのでそこまでの確認はさせていただいておりません。

それともう一つ、算定の基準でございます。第一読会では余り具体的にご説明ができておりませんでしたので、この場をかりましてご説明をさせていただきたいと思っております。

算定の根拠といたしまして、まず業務内容でございます。業務内容ではこの電気主任技術者さんにつきましては日常の定期点検、月1回程度になります。それと、年の定期点検、それと精密点検、あと工事の監督、完了検査、日々の助言、指示、立会などとなっております。これらをもとに中学校では24日、役場については19日、住民福祉センターについては16日程度を基礎として算出をいたしております。ただ、この業

務につきましては、全てが1日単位になるものではございません。それで、これらのことも考慮しまして昨年度の委託料と比較し、調整をして年額報酬といたしているところでございます。

ちなみにでございますが、委託の場合の料金設定でございますが、こちらのほうは受電設備の容量、それと予備発電装置があるかないか、またその大きさにより金額が大体設定されるようになっております。そして、今回の変更施設の分の昨年度の委託契約の金額、それとそれ以外の現在保安協会等に委託している分の金額、こちらを勘案して今回の報酬を決定をいたしております。

それで、今勝浦町で保安業務の必要な施設の現状、中学校、役場、福祉センターにつきましては昨年度の委託料の分でございますが、こちらのほうもちょっと参考としてご説明をさせていただきたいと思います。

○7番（国清一治君） いや、もういいです。

○企画総務課長（山田 徹君） いいですか。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 国清議員。

○7番（国清一治君） 私が最初から聞きたかったのは算定基準のことを聞いたと思うんですけども、この自治法を読む限りは勤務日数に応じてこれを支給する、ただし条例に特例の定めをした場合はこの限りでないという規定があると思うんです、読まれとると思うんですけども。勝浦町の条例を見る限りは特定の定めはないと私は思うんですけども、どこから引用したのか。それと、これ私は行政は大体わかつとるつもりなんですけれども、行政がかわった場合にこの額も変わるかなと思いますけれども、特定の個人を指してこういう技術者を置くのがいいのかどうか。そこらがちょっと疑問があったので、あえて質問もさせてもろうて、私も逐条解説もずっと読ませていただいたんですけど、その報酬のところを日にち言われたんですが、例えばほなこの日にちに8,500円なりを掛たに相当するのがあるのかどうか。条例にどうしてこの特例の定めをしていないのかどうか、どっかにあるんなら、あるんかどうかわからんです、私はちょっと持つとる中には見当たらないということでございますので、そこら再度答弁をお願いします。

○議長（笹 公一君） 山田企画総務課長。

○企画総務課長（山田 徹君） まず、金額の面でございますが、お見込みのとおり先ほどの日数に8,500円を掛けた部分と今までの委託料の端数が若干出てきてはおります。そちらでちょっと安い目のほうをとらせていただいたというのが現実でございます。

それと、別に特段の定めがある場合は日数以外でというふうな部分がどこにあるのかというふうなお話だと思います。こちらのほうにつきましては、条例の203条の現在定められとる条例の中で特別に年額で定めるというふうなことで私としては理解をいたして、今回条例に上げさせていただいたようなところでございます。

それと、今後の話になると思いますけれども、次の方もこの金額でというふうな話かどうか。次の機会になりますと当然委託と実際の技術者として雇うのと、そこらの比較をいたした中で判断を今後はいたしていきたいというふうには考えております。

以上でございます。

○7番（国清一治君） わかりました。

○議長（笹 公一君） ほかに。

議案第2号について質疑のある方ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（笹 公一君） なければ、議案第3号、一般会計補正予算（第2号）についての質疑を行います。

質疑のある方、どなたからでも結構です。

ございませんか。

7番国清議員。

○7番（国清一治君） 議案の修正、差しかえに至ったわけですが、ここで再度聞いておきたいんですけれども、やはりこういうことはあってはならないというところで町長からこういうことは二度と出さないというような言葉をいただきたいのと、あと内容についてちょっと各課長に聞きたいので質問させていただきますが、1点目は税務の課税漏れの、私は事件と言うとんですけれども、あの関係で今回300万円ぐらいの補正が出ております。これはもうまた新たな問題も出てきて、県の経験者の方を採用するというような話であったと思うんですけれども、この件に関して担当課長からトータルでどれぐらい本来要らない予算、これ税金なんです、これを投入するこ

とになるのか。

それと、直接関連はしないんですけれども、前回町長なり給与カットが出ましたけれども、そこらがトータルでどれぐらいになるのか。比較するようなものではないんですけれども、いずれもこれ税金ですので、そこらをちょっと総務課長に聞いておきたいなと思います。

それと、産業課長にはファミリーサポートの補正が出ておりますけれども、第一読会でも今2人の……。

○議長（節 公一君） アグリサポート。

○7番（国清一治君） ほんで、事務費的なものでどれぐらい要るのかというところと、ほれと前回の第一読会でも言うたんですけれども、非常に作業内容が違う、例えば摘果とか、私は摘果でお願いしたんですけども、消毒とか草刈り、非常にきつい作業にもかかわらず協力隊の方には全くその給与関係で影響がないと。影響がないというか、きつい作業でも比較的しやすい作業についても全く同じというんはちょっとおかしいんでないかと思いますので、そこらをアグリとどういう協議を進めていこうとしているのか。そこらを聞きたいと思います。

○議長（節 公一君） まず、久木税務課長。

○税務課長（久木喜仁君） 今回の固定資産税に関する、特に評価なり課税漏れに対する対策費用、予算関係を説明せよということでございます。

当初予算につきましては計上されておられません。7月補正におきまして課税漏れ等に対する対策費用としまして、主に土地の照合システムですけれども約700万円程度、それから今回9月補正で家屋の評価点検に関する作業、主に人件費でございますけれども、これで約330万円程度、合わせまして1,000万円以上の補正予算を計上させていただいております。

以上でございます。

○議長（節 公一君） 山田企画総務課長。

○企画総務課長（山田 徹君） ご質問にお答えいたしたいと思います。

固定資産の課税漏れに係る給与カット等における、している分のどの程度の金額がカットされたかというふうなことかと思えます。給料での概算でございます。7月から1月までで約180万円程度の額となると思えます。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 海川産業交流課長。

○産業交流課長（海川好史君） アグリサポート事業のことでご質問いただきました。

まず、事務的経費のことにつきましては、若手協力隊の雇用となったためにサポート事業に対しましてサポート事業への事務処理や情報発信もあわせて協力隊に依頼することとなりました。そのため、事務諸経費といたしましてパソコンの経費も含めて15万円程度を事務的経費という形で見積もりをしてございます。

もう一点、協力隊の給与面の話がありました。現在サポート業務をしていただいておりますけれども、農作業の内容や従事時間、また従事日数等を考慮して、また現在の他の業務の協力隊との比較もしながらアグリネットと協議しながら考えていきたいというふうに思っております。

○議長（笹 公一君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） この課税漏れから始まりまして、家屋の再評価も現在行っているところでもございまして、予算立てをしているところでもございます。金額は先ほど申し上げましたとおりでございまして、カットの給与分ということでございます。

当然こうしたことで案件でございますので、再発防止、信頼回復に職員一丸となつて、私が先頭でございまして、一丸となつて取り組むべきことでございまして、再発を起こせば今まで言ったことが何だったんかというようなことになりますので、さらに職員にも徹底するためにも再度注意を喚起するようなことも取り上げていきたいなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 国清議員。

○7番（国清一治君） それぞれから答弁をいただきました。

ちょっともう一回アグリのことで聞きたいんですけれども、農家から支払う代金、これは全部アグリに入るのかどうなのか、町にも入ってくるのかどうか、そこらをどれぐらい見込んでおるのか。初めての事業なんでほこまでできてないんかもわかりませんが、ほこらをはっきりしとかないかんかなと思うんです。ほんで、事務的経費で

聞いたときにはパソコンとかの事務用品ということで、実際は仕事の割り振りとかいろいろ事務をされていると思うんです。ほこらを農家から払われたお金でしまいしようにしとるのか、ほこらをちょっと再度聞きたいと思います。

それと、バスの問題で今回これ差しかえとなったんですけれども、先ほどの第一読会で町長からいろいろ答弁いただいたんですけれども、その中で処分の話がちらっと出たように思うんですけれども、その時期はいつなのか。ていいますのは、あのことが新聞に載って、今町民の中でもどういうことが起きとんなど、私ももう何回もはっきり言って聞かれております。たしか県議会中やったと思うんです、あの新聞出たというのが。県議会の話題になったのが私のほうにも問うてきました。どないなつとんね、町はということで、私は非常にこれは大きな問題だと思っております。そこらでどういう処分をされようとしとるのか、それと先ほど税務課と総務課からお金が出てきました。もう必要でないお金が1,000万円も出てきたわけ。これ税金の無駄遣い。私から言うたら無駄遣いと思うんですけれども、ここらの町の負担について再度町長からどう考えているのか、そこらを含めて答弁願いたいと思います。

○議長（笹 公一君） 海川産業交流課長。

○産業交流課長（海川好史君） アグリサポート事業に係るアグリへの作業料金につきましては、アグリから請求書を送って、アグリへの収入という形になります。その額につきましては、ちょっとまだスタートしたばかりできちっとした額というのにお答えになるかどうかというところなんですけれども、月平均10日ぐらい農作業を見込んだといたしまして、1日当たり、1人当たり、時間1,000円といたしまして2人で5時間して10日間というような計算をしますと10万円ぐらいの収入になるのではないかなというふうに考えております。

また、その経費の中から作業所の燃料代や機械の消耗品、修繕代なり草刈り機の刃等のもろもろの消耗品などのランニングコストに充てていく予定でございますし、そのあたりについて今後につきましては使用料がどのぐらいになつとるかというのも含めてアグリとは協議を進めていく予定としております。

○議長（笹 公一君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） この件につきましては再評価の話もございます。固定の評価もございますので、年内には再評価も終わらせたいというようなことで、一定の経

過が出ましたらそのときにいろいろ処分を考えていきたいなと考えております。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 違う違う。

ちょっと小休します。

午後 1 時 57 分 休憩

午後 1 時 58 分 再開

○議長（笹 公一君） 再開します。

中田町長。

○町長（中田丑五郎君） バスの件につきましては、売却というようなことで予算の執行がでけそうなので、それがでて、内部で検討しながら今後の過去の処分もございますので、そのことも参考にしながら、今すぐ何月ごろとかということは明言できませんけども、いずれにいたしましても何らかの処分はしたいと思っております。バス問題はそういうことでございます。

あと、税のことについては現在調査をしておりますので、まだこれからのことだと思っております。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） ほかに。

大西議員。

○10番（大西一司君） それは、関連質疑を行いたいと思います。

最初のバスの問題で、今回で収拾が図られようとしております。しかし、現実的には半年間ぐらいこの間いろんな協議の中で問題等々が発覚しました。一番私が申し上げておるのはガバナンスがきいてない。問題が当初上げた何十万円か60万円かそこら安うなるということで私たちは了としたのが、実際には250万円ほど高くなっている。そのときもいなり控室での熟尽会議でのことで発覚したということで、私が問題にしているのはそれまでにどうして担当部局でそういうことが協議なされなかったのかということで、ということは問題が共有されてないということ。このことについては根本的に役場内部の組織が機能していない、そういう問題を私は何回も指摘しております。このことについて町長から再度対応策というか、今後のこういうことが起こらないような対応策、どういう取り組みがなされるのか、そのことも再度改めて確

認をしておきたいと思っております。

その上で、今回その売却することによって金額的には60万円、70万円損失をこうむるということでもありますけれども、このことについてもやはりその責任というのは出てこようかと思えます。この件についての先ほど町長が答弁された何らかの責任はあるというようなことでもございましたので、そういうことも含めて町長のほうから対応策というか、今後の取り組みを再度お聞きしておきたいと思っております。それが1点。

もう一つはアグリの件ですが、現在国の補助金で動いとるんで、今の考え方でいけるんでしょうけども、これがもしそうでなかった場合、今のやはり補助金がない場合の収入でずっとやっていけるかどうかという問題が出てきます。仮に1人の方が生活するのに20万円、30万円というのは最低条件だろうと思っておりますので、居宅のことも含めて今後の対応というか、そういう長期的な展望に立たないとこの問題は長続きしてこそその成果が出るということなんで、このことについても課長のほうからもどういう今後の取り組みをしていくのか、そういうことについても答弁願いたいと思います。

○議長（節 公一君） 海川産業交流課長。

○産業交流課長（海川好史君） アグリサポート事業に携わる協力隊2名の処遇も含めてということだったと思えますけれども、現在やはりほの研修に参加していただきながら、依頼があったら農作業に出向くということにはなっておるんですけれども、基本的には農業経営なり、3年間の間で勝浦町に最終的な定住なり移住定住がしていただけるような支援というのは町としても考えていかないかなかなというふうに考えておりますし、できれば農業に、みかんづくりに携わっていただければ一番いいかなというふうにも思っておりますので、そこらは今の業務をしながら、また勉強、研修も受けてもらいながら、期間として一つの区切りとしては3年間というところを考えておるんですけれども、ほの間である程度のことができるような形にはなっていたきたいなというふうには思っておりますし、待遇面の話についてもやはり今現在他の業務に携わっております協力隊の方もおいでますので、そこらとのこういったところで業務差、作業、仕事の差があるのではというところのやっぱりほこらも説明しながら待遇改善というところについては考えていかないかなかなというふうには考

えております。

いずれにしても、現在のサポート業務というのを通しながら勝浦町に定住していただけるように努めて支援をしていきたいというふうには考えております。

○10番（大西一司君） ちょっとしたからなんで私のほうから聞いたらよかったんやけど協力隊でない場合、民間が来た場合どうするかということ。お金が全然違う、補助金がない場合。ほのことを言うたん。

○議長（節 公一君） 海川産業交流課長。

○産業交流課長（海川好史君） 民間でこういう業務、今現在アグリで実施しておりますのは水田については完全に収支で回しておると。収入に対してそれをアグリネットの今理事なり構成員が出向いて、その作業料金でもって自分たちの賃金になっておるといったのが現状だとは思いますが、ただ果樹につきましてはなかなか収支が実際に収入だけでそこまでできるのかというふうな形になってきたらなかなか難しいというところもありますし、ただみかん栽培につきましては勝浦町の特産品でありますし、みかんの園地は守っていないかんというようなところからこの事業というのはスタートしておるというふうにも思っておりますので、収入と水田みたいな形での収支のバランスというんができれば一番それは理想なんだろうというふうには考えておるんですけれども、そういった形で急傾斜地での作業が成り立つのかなというところはなかなか難しいんだろうと思っておりますけれども、この事業を続けていくうちにですけれども、この補助金という額はできるだけ減していくという方向には考えていかないかんのかなって思ってます。

○議長（節 公一君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 先ほど来の質問もいただいております。いろんなこうした案件が出るということは、町にとっても町民に対する信頼、先ほど来、何回も申し上げておりますように信頼の失墜というの、大きなことでございまして、これを回復するにはなかなか大きなエネルギーも必要だということでございますので、なお一層徹底しながらやっていきたいということでございます。

こんなことでございますけれども、ただバスの件につきましては教育委員会との連携といたしますか、それで何回、何十回となく協議をしながら、議会とも相談しながら前に進めてきた経緯ございまして、しかしながらそうした中でもミスは発生もしたとこ

ろでもございまして、事前に未然に防ぐことができなかったというようなことは連携の甘さがあったのかなということで反省もしております。そんなことがないように、もう本当にかかなりの時間とエネルギーは費やしたのは確かでございます。私自身も任せることなく一緒に協議に加わって協議したという経緯もございまして、この時間が有効に使えたらいいのになということも思いながらこの案件に取り組んできたところでもございます。

以上でございます。

○議長（節 公一君） もう一点。

売却に対して65万円の損失が出たことについて。

○町長（中田丑五郎君） 本来、売却でなしに10人乗り以下の車にかえて中で有効活用できないかというようなことで話も進めた経緯もございます。いろんな経過も経ながら、結局最終売却というようなことになりましたけども、いろんなことを考えておりますながら何が一番ベストなんかベターなんかということを考えながら内部で検討したことも事実でございます。

以上でございます。

○議長（節 公一君） 大西議員。

○10番（大西一司君） 町長の答弁、何回も聞くのはちょっとしのびんですが、やっぱり話にありましたように問題が横断的に共有されていないということが一番であろうと思っております。その証拠の一つがバスを処分するという、そのときにマイクロバス、小さい車が2台処分時期が来とんでそれ処分して、そのバスを代用して使うというようなこと。2台になるということでしたね。そしてその現在保有しているマイクロバスが月に5回ぐらいしか使用できてないのにそういう2つにするというような案が途中で出てきました。こういったことも横のつながりというか、役場全体の組織が問題を共有されていない証拠だったと私は認識しております。

ですから、それぞれが担当課内での問題だけでなしに、こういったことはもう全体の組織というか、役場全体の問題であるので、そういったことを本当に共有できるようなそういった縦のつながりあるいは横断的な問題意識を共有するというようなことに絶対もうしてほしいなと、この反省を踏まえて、思っております。

行財政改革で本当に少ない人数となっております、職員の皆さん方も大変だろう

と思っております。その点は十分理解をしておりますけれども、それがしかし言いわけにはならんわけでありまして、少ない人数で一つの方向に向かって全員が一丸とならない限り、町の発展はないと再度申し上げておきます。そういう私の認識であるんですが、教育長に一遍も答弁してもらってないんで、こういった認識でおられるのか、教育長のほうから答弁願いたい。

もう一つ、産業課のほうは、一番心配しとんのは長く続いていくことであって、やはり勝浦農業の基幹産業であるみかん栽培がずっと子や孫のときまで続いていくと、そのために親から子に渡す間、もし途切れる場合にこういったアグリサポートクラブが活躍することによってずっと続いていくというような一つの大きな役目も担っております。ですから、続いていく中において今は協力隊で補助金が国から出ておりますけれども、これがなくなった場合にやはりそれぞれが独立採算で結局そこで生活できていくような方法をとらない限り、続けていけないと思っております。この件についても再度答弁を、課長の認識を伺いたいと思います。

以上です。

○議長（笹 公一君） 椎野教育長。

○教育長（椎野和幸君） 今回の9月議会ではたくさんの時間を頂戴をしております。まずはそのことに感謝とおわびと両方を申し上げたいと思います。いろいろとありがとうございます。

今、10番大西議員のほうから今回の件でというご質問ございました。ガバナンスの件につきましては、今まで本会議等々で何度となく答弁をさせていただいたとおりでありまして、何らその気持ちは変わっておりませんので、申し上げたいというふうに思います。

原因というか、そこに至るところというところですけども、議員おっしゃるとおりで情報の共有というのが足りてないというところが一番の原因でなかろうかというふうに思ってます。今後の対応ということですけども、26年の就任以来、報告、連絡、相談、俗に言う報・連・相、この言葉をずっとお願いをしてきました。まだまだ徹底ができておらなかったのが情報の共有に至らなかったのかなというふうに思ってますので、そういったところ改めて取り組んでまいりたいというふうに思っていますので、引き続きのご指導のほどよろしくをお願いをいたします。

○議長（笹 公一君） 海川産業交流課長。

○産業交流課長（海川好史君） 3年後のことの心配の話なんだろうというふうに思っております。3年後、協力隊の任期が終わってというところで、今現在みかん収穫お助け隊のほうにつきましてはJ Aとの無料職業紹介事業というあたりを、そういった事業をJ Aと連携する中で進めていきたいと考えておりまして、そのあたりの事業との、このアグリサポート事業とのこういった形での連携なりというような形も含めて検討をしてきたいと思っておりますし、3年後にもまた協力隊の制度があるかどうかという話もあるんですけども、そういった話も考えながら早いうちから考えていきたいというふうには考えてます。

○議長（笹 公一君） ほかに。

5番松田議員。

○5番（松田貴志君） 議案第3号について質疑をいたします。

それぞれ同僚議員から質問をされました。私は1点だけお尋ねしたいと思います。

今回議案の修正がありました。この点についてもう原因はある程度ここで議論は尽くされたことと思いますけれども、今ちょうど教育長のほうから今後の対応方針について述べられましたので、行政側、総務課長、今回この修正に至った経緯も踏まえて、今後具体的にどのような点を注意して行政運営を行っていこうと思うのか。また、こういった事務手続の点においても今まで不備があったからこういった経過が生まれてきたと思うんで、そこらあたり今後どのような方針を持って具体的に運営をされていかれようとしているのかをお尋ねしたいのと、先ほどから町長に対してこの間の責任の問題、また町長の今後の対応方針も聞かれております。しかしながら、答弁が余りにも弱々しい。くどいようですが、4カ月後には町長選挙が控えて、そこへしっかりと出馬を表明されている立場としてこの残り4カ月、もっと力強くこの勝浦町を引っ張っていくんじゃという気持ちを前面に推し進めるぐらいでなかったら私は本来表明する立場でないんじゃないかなって思うんです。

特にこういった問題が明るみになって間もなく表明され、結局また新たな固定資産税の課税の部分において不備も出てきて、今回また補正の分も出てきております。何もかもがちぐはぐになり、こういった問題を受け、住民は、現に私自身も聞いておりますけれども、固定資産税以外もちゃんと徴収されよんだろかという不安も抱いてい

るんです。これ以上、こういった不信、不安を広げないためにもやっぱりここで一番力を発揮するのが町長のやはり姿勢と思うんです。ここでしっかりと力強く再発防止策またこれからの方針を高らかに、宣言までとは言いませんが、しっかりと自分の力強い言葉でこの場において言うぐらいでなかったら、今後の4年間のかじ取りなんてとてもじゃないけど無理と私は思います。そこらあたりの覚悟を踏まえて町長には今後の方針もそうですけれども、ほんまにこのままでええんか、町長としてこういったことも踏まえて、これから仮にチャレンジされようとする4年間余りをどのような姿勢を持って町職員を引っ張って行って、さらには町民全体の信頼を回復に努めようと考えておられるのか、その点についてお聞きしたいと思います。ちょっと質問が広がり過ぎて、質疑に偏ってない部分もあると思いますけれども、ちょっとご容赦願いたいと思います。お願いします。

○議長（鄧 公一君） 山田企画総務課長。

○企画総務課長（山田 徹君） 今回の件の再発防止についてどのように考えているかというふうなご質問であったかと思います。

まず、今回特に予算の修正が2件ほどございました。その件につきましてまずご答弁させていただきたいと思います。

まず、1点につきましては、先ほど来ちょっと議論にもなっておりますけれども、他会計の分についてのチェック、こちらのほうがきちんと詳細にできていなかったという部分は非常に大きいかと思います。こちらにつきましては言いわけにも先ほどもなっているかもしれませんが、企業会計ということでどうしてもわかりにくいということで少し甘くなってしまったというところがあるかと思います。こちらにつきましては、やはり町の事業として当然企業会計を持っているんですので、自分がいつ行くか、そういうふうなことも踏まえた中で、全ての財政を扱うんだというふうな認識を持って取り組めるような職員、私も含めてですけれども、やっていきたいなというふうには思っております。

それともう一つ、事業についても当然予算が伴うものでございます。こちらのほうにつきましては、お金だけの問題でなく、お金のほうから事業の効果とかそれとか費用とか、そういうふうな部分をよりチェックをしながら進めていくような格好にしなければならぬと思います。どちらにしても基本的には職員が何が重要なのかという

のと、公平性と平等性、その上で費用対効果を考えて予算づけをする、事業を選んでいく。そのために予算が大体つきますので、総務課、財政担当課といたしましてはそれが全部入って、情報が入ってくるというふうなことを認識して、より一層事業の内容、執行方法も聞きながらヒアリング、査定に取り組んでいくような方法が必要ではないかと思っております。

以上でございます。

○議長（節 公一君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 5 番議員から 2 回振りですか、こうした質問があったのは。非常に私にとりましては本音でない話かなと思いながら聞いております。しっかりと私もこうしたさまざまな案件がございまして、問題が出てる一つ一つを解決しながら再発防止に努めているところでもございますけども、あにはからず次から出ていくことから考えますと非常に言いわけがましい話になりますけども、しかしながら私も決意をした以上は町民の負託に応えて、一生懸命町政のために公平、公正な町政運営をやっていかなければという強い思いから今回出馬をしているところでもございますので、そうしたことも含めまして再発防止に力を入れながら、今後とも職員の皆さんとともども町勢の発展のために頑張っていかなければという強い思いがいたしております。今後とも元気に活発にやっていかなければならないという思いがいたしております。私に町政を任されて一生懸命やることが何よりのことでございますので、どうかそうした決意でございますので、よろしくお願いを申し上げる次第でございます。

以上でございます。

○議長（節 公一君） 松田議員。

○5 番（松田貴志君） 総務課長のほうから答弁いただいた分について、間違いなく総務課長は来年の 1 月以降もその立場でおられると思いますので、今のところはおられると思いますので、今のこの行政の組織の運営体系についてちょっともう一点だけ聞かせてください。

よく私、耳にするのは、課長会議とかといって月に 1 回ないし 2 回しよんですか。そういった場においてどんな議論がされよんかなっていつも思うんです。そこである程度町の重要案件という部分はしっかりとそれぞれの課長の中で共有されていたら、

今回の件とあって、仮に課長会事前に諮れる機会があればそれぞれの立場で気づいてこういった部分、特に企業債の枠の拡大の部分とか、今回のタクシーについても実際ほんなん必要ないんじゃないかと、またはたまた購入せんでもリースでええんじゃないかと、それぞれの課長の立場で意見を出す中でもっと違うような形になり得たんじゃないかなと思うんです。

その辺の部分においてその課長会が生かされとんかという部分についてすごく不審に思うんです。これからまたもっともっと精査された上で新たな再発防止策も考えられると思いますけれども、やはりそういった一番町の要職を占めている幹部の皆さんが集う場において、重要案件についてはしっかりとそれぞれの担当担当で違う課であってもやっぱり最低限の認識はしとくべきなんかなって思うんです。そこらあたりのこれからの形づくりという部分はちょっと考えていってほしいと思いますし、誰がリードをして課長会をしょんかどうか知らんのやけど、そこらあたり町長なんかな、ほーいう招集かけるんて、誰がするんか知らんのですけど、もし答えられる方が誰になるかわかりませんが、もっともっとそういった幹部会議、課長会議について機能的な、また効率的な行政運営をどのようにしていくかという議論の場として機能させてもらえませんか。ちょっとこれはもう答えられる方で構いませんので、この点について今後のことなんで答えていただきたいと思います。

もう一点、町長は先ほどのような認識でさきの答弁になったんか、ちょっとうかがい知れかねますけれども、実際現に町長として今この町政を託されとる立場として限られた残り4カ月の任期であろうとも、やはり自分のリーダーシップによってもっともっと課長、また職員のやる気という部分についてはもっと奮起を促せると思うんです。そこらあたり町長は言葉としては伝えておりますけれども、果たしてほの部分でそれぞれの課員に伝わっているのかってすごく私は疑問に思うんです。町長その辺どう考えてますか。自分の思いはこの場では言葉としてあらわしてはいますけれども、なかなかその部分をしっかりと職員に伝えられていない部分が今こういったいろんな問題に出てきているんじゃないのかなって私思うんです。

ほんで、この点、深掘りしても終わりませんので、結局これから残り4カ月間、どちらにせよ、私自身の思い言わせてください。もちろん自身の選挙活動も大事だと思いますけれども、もうこういう緊急事態だからこそもっともっと、小池さんでないけん

ど、町政運営に集中して、最大限の努力をしていってほしいです。いろんな案件待ち構えておりますので、もう最後に一言だけまたお願いして、質疑終わります。

○議長（笹 公一君） 山田企画総務課長。

○企画総務課長（山田 徹君） 課長会の状況というふうなことであろうかと思えます。

課長会議につきましては、月2回、基本的には定例的にやっております。内容といましては、本来議員さんのおっしゃられたように町の重要課題についての共有というのは、全てと言われると落ちもあるのかなというところはございますが、課題の共有ということでそれぞれの課長さんの問題、抱えている部分とかについてはある程度は出ているかというふうには思います。ただ、最終的にどのようにしようとか、そこらのところが、あくまでここは私の感覚でございますけれども、そこらの詰めというか、最終的なところが甘いというか、当然担当課があるのでこうしなさいとはなかなか言えないというところはあるんですけれども、そこらの最終が詰めができていないようなところは若干あるのかなというふうには思っております。

あと、重要課題だけでなく、当然課長、今短期間で非常にかわっております、人事異動によりまして。ほんで、そこらを考えますと、前課長の知恵とかというのはかなり使ってはないとなかなか回っていかないというのが現実のところだとは思いますが、そこらがなかなか重要でなくてもその課長からすると重要なんですが、ほかの方からすると重要でない、そういうふうな部分についてなかなか発言しにくいような部分もあって後手後手に回るような部分はあるのかなというふうには感じております。

あと、当然やっぱり課長会議となりますと全ての課を動かしている長が集まるところでございます。そこで今までの経験と知恵とを十分に生かせるような会議にしていくなのがやっぱり正しいし、有効なものでないかとは思っておりますので、よりそういうふうな活用できる有効な会議になるように進めていくことが重要だと考えておりますので、そのような方向により進めていくように努めていきたいとは思っています。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 中田町長。

○町長（中田丑五郎君） この期間、意思表示をしてから町政優先です。5時まで、5時っていうのが私の勤務時間かどうかは別にしましても、5時ごろまでは職務に専

念をいたしております。それが優先だと思っておりますし、昨日も高知のほうにも行ってまいりました。そうしたことでいろんな町として対応していくような機会はやはり積極的に出ていかなければ、視察等につきましては若干遠慮したところもございますけれども、できるだけ町のための町内において、いろんな業務が必要とあれば町内にとどまっております。

以上でございます。

○議長（節 公一君） ほかにございませんか。

議案第3号については以上でよろしいでしょうか。

（「なし」の声あり）

○議長（節 公一君） それでは次に、議案第4号についての質疑を行います。

質疑のある議員は発言をお願いします。

国民健康保険特別会計の補正予算についてです。

質疑ありませんか。

ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（節 公一君） それでは次に、議案第5号、介護保険特別会計の補正予算について質疑のある方。

ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（節 公一君） 質疑なしと認めます。

続いて、議案第6号、病院事業特別会計補正予算について。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（節 公一君） 質疑なしと認めます。

議案第7号について質疑を行います。

質疑のある議員は発言をお願いします。

ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（節 公一君） 質疑なしと認めます。

以上で第二読会の詳細質疑を終了します。

お諮りしますが、自由討議を希望される方はおられますか。

ありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(筈 公一君) ないようですので、自由討議を省略し、次に日程第5、議案第1号から議案第7号までを第三読会に付すことに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(筈 公一君) 異議ありませんので、本件は第三読会に付すことに決定いたします。

これより第三読会を開きます。

議案第1号から議案第7号までの7件を一括して討論と採決を行うことに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(筈 公一君) 異議ありませんので、一括して討論と採決を行うことに決定いたしました。

これより討論を行います。

討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(筈 公一君) 討論なしと認めます。

これより採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本件を原案のとおり決定することに賛成の方はご起立願います。

(賛成者起立)

○議長(筈 公一君) 起立多数と認めます。したがって、議案第1号から議案第7号は原案のとおり可決されました。

~~~~~

○議長(筈 公一君) 次に、日程第12、報告第1号、平成28年度決算に基づく財政の健全化判断比率についてから日程第14、報告第3号、平成28年度簡易水道事業特別会計継続費精算報告書についてを一括して議題とします。

提出者の説明を求めます。

中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 報告 3 件につきましてご説明を申し上げます。

報告第 1 号は、平成28年度決算に基づく財政の健全化判断比率についてであります。

次に、報告第 2 号は、平成28年度決算に基づく資金不足比率についてであります。

それぞれ監査委員の意見を付して報告をいたします。

また、報告第 3 号は、平成28年度簡易水道事業特別会計継続費精算報告書についてであります。

これは川北簡易水道整備事業につきまして地方自治法施行令第145条第 2 項の規定によりまして継続費精算報告書を調製いたしましたので、議会に報告するものでございます。

なお、詳細につきましては、担当課長に説明いたさせますので、よろしく願いを申し上げます。

○議長（節 公一君） 町長の説明が終わりました。

続いて、詳細説明を求めます。

報告第 1 号及び報告第 2 号について、山田企画総務課長。

○企画総務課長（山田 徹君） それでは、報告第 1 号についてご説明をさせていただきます。

平成28年度決算に基づく財政の健全化判断比率についてでございます。

地方公共団体の財政の健全化に関する法律の規定によりまして、平成28年度決算に基づく 4 つの健全化判断比率を算出いたしましたので、監査委員の意見をつけて報告をいたします。

まず、報告書、一番左側でございます。実質赤字比率でございます。こちらのほう是一般会計等の普通会計を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率でございます。平成28年度決算では普通会計は黒字となっておりますので、数値はあらわれておりません。

次に 2 番目、連結実質赤字比率でございます。こちらは全会計の実質赤字の標準財政規模に対する比率でございます。こちら先ほどと同じように全会計とも黒字でござ

ざいます。これで数字はあらわれておりません。

次に、実質公債費比率でございますが、こちらは普通会計への地方債元利償還金等から元利償還金に対して交付税措置される額等を除いた実質公債費の標準財政規模等に対する比率でございます。こちらのほうは決算年度を含めた前3年間の平均値であらわすこととなっております。この算出に用いる標準財政規模等は実質公債費と同様、元利償還金に対して交付税措置される額を除いて算出をされております。この基礎となっております単年の実質公債比率でございますが、平成26年度が約3.54%、平成27年度が3.99%、平成28年が4.44%でございます。これの3カ年平均でございまして3.9%となっております。この3.9%につきましては、早期健全化基準の25.0%を下回っております。

最後に、将来負担比率でございますが、こちらは地方債の現在高等から公債費償還に充当できる減債基金などの額、元利償還金に対して交付税措置される額等を除いた地方債現在高の標準財政規模に対する比率でございます。こちらのほうにつきましては、地方債現在高より充当可能財源が上回っているため数値としてはあらわれておりません。

財政の健全化判断比率から見た勝浦町の財政状況につきましては、健全な状況と言えます。ちなみに、4指標とも標準財政規模をもとに算出した額に対する比率となりますが、平成28年度勝浦町の標準財政規模については22億7,736万3,000円というふうなことでございます。

続きまして、報告第2号、次の次のページをお開きいただけたらと思います。

平成28年度決算に基づく資金不足比率についてでございます。

こちらは地方公共団体の財政の健全化に関する法律の規定により、監査委員の意見もつけて報告をいたします。

この指標につきましては、公営企業会計の資金不足額の各会計事業規模に対する比率で、病院事業会計は流動資産等から流動負債等を除いた額がマイナスであれば資金不足が生じ、簡易水道会計、農業集落排水事業会計は実質赤字がある場合に資金不足が生じることとなりますが、平成28年度決算ではいずれの会計も資金不足額はありませんので、数字としてはあらわれておりません。これからすると、公営企業会計におきましても健全な状況で決算しているというふうなこととなっております。

以上でございます。

○議長（笹 公一君） 次に、報告第3号について、松本簡易水道対策室長。

○簡易水道対策室長（松本博文君） 報告第3号について詳細説明させていただきます。

報告書の次のページをごらんいただきたいと思います。

平成28年度勝浦町簡易水道事業特別会計継続費精算報告書でございます。

1款2項川北簡易水道事業といたしまして全体計画の平成24年度から28年度までの年割り額合計が5億6,832万2,000円、実績の支出済額合計が5億6,818万7,799円であり、比較の年割り額と支出済額の差の合計は13万4,201円でございます。

以上が報告第3号の詳細説明でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（笹 公一君） 以上で詳細説明は終わりました。

報告第1号から報告第3号について質疑を行いたいと思いますが、質疑はございませんか。

ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（笹 公一君） 質疑なしと認めます。

以上で3件の報告は終了いたしました。

～～～～～～～～～～～～～～～～

○議長（笹 公一君） 続いて、日程第15、同意第1号、勝浦町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題とします。

これより第一読会を開きます。

町長から本件の提案説明を求めます。

中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 続きまして、同意第1号の提案理由の説明をさせていただきます。

同意第1号は、勝浦町固定資産評価審査委員会委員の選任についてでございます。

次の者を勝浦町固定資産評価審査委員会委員に選任いたしたいので、地方税法第423条第3項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○議長（笹 公一君） 町長の説明は終わりました。

議事の都合により休憩いたします。

午後 2 時47分 休憩

午後 3 時00分 再開

○議長（笹 公一君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

改めて町長から本件の提案説明を求めます。

中田町長。

○町長（中田丑五郎君） 済いません、失礼しました。

同意第 1 号、勝浦町固定資産評価審査委員会委員の選任について、次の者を固定資産評価審査委員会委員に選任したいので、地方税法（昭和25年法律第226号）第423条第 3 項の規定により、議会の同意を求める。

住所、勝浦町大字坂本字日浦16番地。氏名、大谷智彦。生年月日、昭和22年 5 月 7 日生まれてございます。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○議長（笹 公一君） 町長の説明は終わりました。

お諮りします。

本件については、従来 of 慣例に従い、第二読会を省略し、直ちに第三読会において採決することにしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（笹 公一君） 異議なしと認めます。

これより第三読会を開きます。

この採決は起立によって行います。

本件について原案のとおり決定することに賛成の方はご起立願います。

（賛成者起立）

○議長（笹 公一君） 賛成者多数と認めます。したがって、同意第 1 号、勝浦町固定資産評価審査委員会委員の選任については原案のとおり同意されました。

~~~~~

○議長（笹 公一君） 次に、日程第16、議員派遣の件を議題とします。

お諮りします。

議員派遣については、お手元に配付しましたとおり派遣することにいたしたいと思

います。これに異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(笹 公一君) 異議なしと認めます。したがって、本件は原案のとおり派遣することに決定いたしました。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

以上をもって本会議に付議された案件の審議は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会します。

お疲れさんでした。

午後 3 時03分 散会

以上会議の顛末を記し相違ないことを証するためにここに署名する。

勝浦町議会議長

勝浦町議会議員

勝浦町議会議員